

K y o t o T e c h n i c a l S i t e

取材・文／竹中 聡（本誌）
撮 影／エディオオムラ

若人たちよ、五条派の声を聞け！ 大人つて、エライねんぞ！



巨匠がタマゴだったころ、
集い、住まった場所があった。

「三文小説を読むくらいなら、良くてきたマンガの方が価値がある」本誌の裏表紙で連載しているのはマンガである。画稿は全て、精華大学の学生のもので、プロになろうとしている漫画家のタマゴたちも京都には大勢いる。京都という街は、マンガ文化も高い。

今、「近所さんのアジア各国やアメリカはもとより、ヨーロッパや南米でも、ものすごい数の日本のマンガ（ストーリーマンガ）が読まれている。「ジャパニメーション」という、日本が世界に誇る新たな技術・文化も同様に評価されている。

かつて東京都豊島区に「トキワ荘」という木造アパートがあった。かの手塚治虫が、後に石ノ森章太郎、赤塚不二夫、藤子・F・不二雄や藤子不二雄（A）ら、今に続く日本マンガ界の礎を築いた偉人たちも住まっていた、伝説のアパートだ。この存在がなければ、日本のマンガ文化は花開かなかつたかもしれない。

彼らはその狭いアパートで口角泡を飛ばして語り合い、その中で創作意欲を育み、互いの天性を引き出し合うことで、数々の作品をドロップした。

今、京都は五条楽園に、同じ読みを持つ一軒の建物ができた。それはアパートではないし、中に漫画家のタマゴたちが（今のところ）住んでいるわけでもない。しかしながら、この「TOKI-WA-SOHI」の主が、自らの物件を伝説のアパートに重ねていることは想像に難くない。

**当節流の共同トイレは、
勝手に便器のフタが開く。**

「CREATORS SOHO」というサブタイトルがついた現代の「トキワ荘」は、ふたつの顔を持っている。まず一つ。いわゆる「Small

Office/Home Office」の「SOHO」で、横に長い建物の前半分はいわゆるレンタルルーム。素性は、元遊郭。4畳半から10畳ほどの小割りされた部屋がある構造は、ちよつとした個人事務所に最適なサイズなのである。家主の岩田哲さんの言葉を借りると、「クリエイターに最適」な構造と間取りだそうで、確かに、取材に同行したフォトグラフィアーなどは、「暗室つくれる。ちようどエイ」とかなり興味を示していたし、デスクとパソコン、冷蔵庫でも置いて2〜3人で一部屋をシェアしても、使い勝手はかなり良さそうである。

住居ではないが、こういった施設に最近ついて回るのは、「セキユリテイは？」、「設備は？」という話だ。玄関にはちゃんとした受付。オートロック。カフェも併設。各部屋エアコン完備。トイレは共用ではあるが、往年の安アパートとは違いドアを開ければ勝手に便器のフタが開く。隅々までそのあたりに抜かりはないのだが、オーナーの岩田哲さんに言わせると、そういうことではなく、「同じ屋根の下やんけ、皆で鍋でもせえへんか？」と、『鍋囲みながら語りべの会でもしよーやー』と、いうことらしい。

**見取り図よりも、よく分かる。
独白大会、はじまりはじまり。**

人の言葉とは大したもの、そう聞くとこの建物がより鮮明に見えてくる。よりインキュベイトイヴなものにしたらしいのだ。「インキュベイト」とは、卵を孵化させるのに抱くという意味で、転じて人材育成というような意味で使われるが、まさにこれ。これは岩田さんの想い（というかストレス）による。以下、ほぼ独白。

「大人はスゴイねんぞー」ということを言いたい。子供は社会の中で大人を見て、大人についていって、そこで見るものを憶えて育つんで

す。例えば親父が何人か集まって麻雀をする。そのまわりにいる子供が見て真似て、いつしか麻雀ができるようになる。今の大人は、その場をつくらんとイチヤモンだけ言うてズルインですよ。『家庭家庭』と言うて我が家だけを大事にするから、子供が『外の大人の社会』を見ないで、大人を敬う子供がいけない。大人はスゴイんやぞー！と言う場所がない。

この辺り、「子供」を「若者」と置き換えて読んでみていただきたい。岩田さん自身、娘さんの参観日に招かれ、そこで見た教育と自分の思いのあまりの温度差に耐えかね、暴れて娘さんから出入り禁止を言い渡された僕物である。巷間言われるモンスター・ペアレンツとは、ある意味まあ、真逆の存在だ。で、あるからして、独白は続く。

**豊臣秀吉が見つけた石田三成は、
こんな子供であったとき。**

「豊臣秀吉が石田三成を見出したのは、狩りに出たときに立ち寄った茶屋。年端もいかぬ三成が、まず冷めた茶を、その後に熱い茶をだした。『お見受けしたところ、狩りにいらしては冷めた茶を喉を潤していただきます、その後熱い茶を味わっていただきます、と心得ました』と。そこで秀吉は『これ主人、この子は僕が預かるが良いか？』と。育ても育てたり、見つけも見つけた。これが人材発掘です。では今の子供たちは三成人り得ないか、というところなことはないはずで、ちゃんと『栄養』は持つてる。ただその出し方が分からないだけで、『出えへんのか？』ほな流腸の2〜3本でも打ったるか？』と（笑）。その為にはバケツを持って立たせるのも良いんです。『躰と称して若干の痛い思いはしてもらってもいられせんよ』と（笑）。外国の人から、日本人は優しい、とよく



言われる。ンなもん当たり前なんです。『大いなる和の国』で『和を以て尊しとなす』んですから。穏やかですわ。その歴史の縦糸をね、絶やしたくないんです。こういった古い施設で、先人たちの意識しながら仕事や活動をして欲しいんです」

五条楽園に、花は咲かない。ただ種が芽吹く、土がある。

ここで、この建物の後ろ半分顔に得心がいく。2階には私塾があるのだ。松下幸之助翁が主催した松下政経塾や、もつと以前、吉田松陰らが志ある若者に時代や思想や哲学や兵法を説いた場所、アレである。建物が建物であるから、ルックスも正に寺子屋。レンタルルームとは直接関係はないが、私塾に通う現代の書生たちと、時代を担うクリエイター（つまり現代トキワソウの住人たちが一つ屋根の下で語り合うことで、いっしょに日本や世界を支えて欲しい。それが願いだ。「絵画の流派でも、政治の流派でも良いんです。ここで過ごした子たちが、(土地名にちなんで)『五条派』と呼ばれるようになって、最終的には政権を獲る(笑)、『オレを幹事長くらいにしてくれよ』と(笑)。

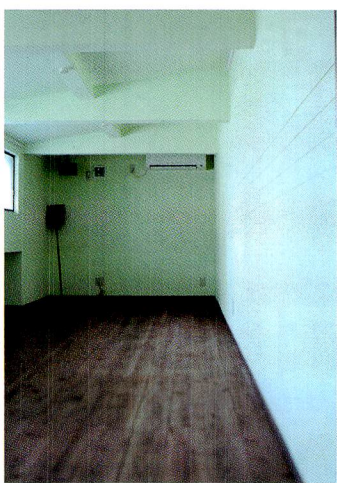
そこから生まれる真のリーダーシップとは、アメリカや中国の押しつ

け型ではない、と岩田さんは言う。「トヨタなんて、自分からは何にも動かなくても、相手から教えを請いに来るわけですよ。『ああそう。知りたい? ええよ』と(笑)、そういう風に泰然自若としているのが真のリーダー。それこそ京都なんて、なんにもせんでジツとしとつたらええ(笑)。

「ここは21世紀の木賃アパートと教練道場ですわ」。

それは昭和四畳半文化の、ロートルが懐古するシーンなのかもしれない。だが、老若男女の別を問わず、一つ屋根の下にいてもメールやチャットで会話し、声すら使わない人間が増えていく今を、手塚治虫が見ても喜びはすまい。では08年に生まれた「トキワソウ」と、その中で暮らす若者を見たときは、はたしてどうだろうか。

この場所に花は咲かない。だが、ここには種がある。この建物は、種が芽吹く土であればいい。花たちは、NYで咲くかもしれないし、ミラノやパリで咲くかもしれない。ここは、やがて世の中を支えるであろう五条派と呼ばれる人々が、無冠の時代を過ごした場所であれば、それでいいのだ。そう、かつての「トキワ荘」のように。



1

1.レンタルルームは1Fに1室、2~3Fに6室の計7室で、専用使用料75000円~、保証金224000円~2.1Fの庭に面した応接間は、岩田さん会心の作。「ワインじゃなくて葡萄酒を、戦国武将の勝ち組が飲む感じ(笑)」3.ヴィンテージ雑貨の蒐集家でもあり、トイレ壁面には昭和初期の新聞(コピーではない!)を思い切って使った4.建物の後ろ半分は、特に「英徳館」と称し、2Fに私塾となる教室があって、そのまま映画で使えそうな様子だ5.応接室から、縁側を経て庭を望む。その瞬間にインスピレーションやクリエイティビティが生まれると岩田さんは言う

2



3



4



5



TOKI-WA-SOH CREATOR'S SOHO

トキワソウ クリエイターズ・ソホー

京都市下京区西木屋町通五条下ル平居町19

☎075・351・8969

問い合わせ

☎075・623・0770 【(株)イワタコーポレーション】

<http://www.tokiwasoh.com/>